

学校教育目標	
自律、尊重、創造、挑戦 ○自ら考え、判断し、行動する生徒 ○豊かな発想をもち、創意工夫する生徒	○違いを理解し、他者を尊重する生徒 ○変革やチャレンジをし続ける生徒

令和4年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
○GIGA スクールに対応してオンラインを活用した教育活動を実践する。 ○特別支援教育のニーズを生かした「個別最適な学び」を実践する。 ○小中連携による学力の向上を図る。

各教科の指導の重点	指導の重点（本校の捉える「確かな学力」）	総合的な学習の時間の指導の重点
○GoogleClassroom や iPad 等を活用し、教室と自宅で学びの継続を意識した環境づくりと課題の設定 ○知識・理解の力を高めるためのICT機器の活用やオンライン教材を活用した授業の展開 ○英語・数学における習熟度別少人数指導の実施	○基礎的な知識及び技能 ○これらを活用し課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力 ○主体的に学習に取り組む態度〔自己調整力の育成〕 ○多様な解答がある課題に対し取り組み、納得解を導き出す力 ○情報を収集・評価・整理、再構成し発信する力	○統一テーマを中心に体験的学習・探究的学習の実践 ○防災・安全学習により、知識・理解・態度の育成
		特別活動の指導の重点
		○生徒が活動する場の充実を図り、自己有用感や達成感の機会の設定 ○生徒会活動等を通して、自主自立の精神を培い、社会に参画する態度の育成
		道徳教育の指導の重点
		○人権を尊重する精神を基調とし、豊かな心を育み、思いやりの心や規範意識を身に付ける ○3年間を見通した道徳教育の推進

キャリア教育の重点
○キャリア教育の全体・年間計画に基づき、自らの生き方を考える機会の設定と生涯にわたり、健康・安全な生活を送ることができる能力や態度の育成

生活指導の重点
○基本的生活習慣の確立 ○いじめ防止対策推進基本法に基づき、全校体制でいじめの撲滅に向けた取組 ○特別な支援を要する生徒の早期発見と全校体制による支援活動の推進およびスタディ・ルーム（特別支援教室）の活用

授業改善の視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	小学校との連携	家庭・地域との連携
○毎授業時にねらいを提示し、学習内容を明確化 ○数学・英語における少人数習熟度別指導 ○生徒の実情に応じた教材開発 ○ICT 機器やオンラインを活用した授業方法や課題設定の工夫	○少人数指導 ○授業時数の確保（週単位での授業時数過不足の調整） ○個別指導計画の活用 ○ニューノーマルの学習モデル	○各教科の評価の観点と評価方法の改善 ○指導と評価の一体化 ○家庭への学習状況や評価方法の明確な提示 ○道徳の適切な評価の実施	○「iPad を含めたICTの効果的な使い方や深い学びにつながる活用法について」研修し、ICT支援員・GIGA 支援員に授業の中で支援を受けながら授業改善にも取り組む。	○算数数学、英語における知識技能、思考力・判断力表現力の育成にかかる小中の協働的な授業改善 ○小学校の授業観察を適宜行い、小学校での様子を把握して小中連携の強化	○小中連携教育の推進による数学および外国語指導の連携の強化（指導上の課題を明確化） ○保護者による学校評価の活用 ○ホームページの更新およびブログや SNS の随時更新

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

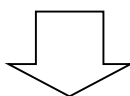
授業規律確立のために授業支援と個別指導にあたる。  
 落ち着いて学校生活をおくるために学年の支援にあたる。

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	<b>区学力調査の結果の分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の言語文化に関する事項」および「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。</li> <li>・読書に関する意識は比較的高い傾向にある。</li> </ul>	<b>具体的な授業改善案（手だて）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典や言語事項など、言葉の知識に関する内容を充実（授業で扱う場面を増やすなど）させ、定着を図る。</li> <li>・話し合い活動や発表活動などを中心に、話者としても聴者としても望ましい態度やあり方などを指導する。</li> </ul>
	<b>授業における課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の仕方や語彙の不足、文法や文の構成などを繰り返し学習する必要がある。</li> <li>・媒体や形式に沿って適切な情報収集や表現の方法を身につける必要がある。</li> </ul>	
2年	<b>区学力調査の結果の分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の扱い方に関する事項と書き言葉での表現に課題が見られる。</li> <li>・国語への関心は高く、主体的に取り組む態度も見受けられるが、授業内での取り組みに積極的でない者も散見される。</li> <li>・コンピュータを用いての情報発信や情報の整理に苦手意識がある生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富な情報の中から必要な情報を読み取り、まとめたり、相手に伝えたりする機会を増やす。</li> <li>・発表や話し合い活動の際に、自由な言い方だけでなく、定型文や状況に応じた言い回しなどについても指導する。</li> <li>・日頃の授業から積極的にiPadなどを用いて物事を調べたり、まとめたりさせる。また、情報を整理しやすくするためのワークシートを準備したり、情報を発信する際に必要なことを事前に指導し授業に取り組みせていく。</li> </ul>
	<b>授業における課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を適切に読み取り、まとめたり、相手に伝えたりする必要がある。</li> <li>・表現の仕方や語彙の不足、文法や文の構成などを繰り返し学習する必要がある。</li> <li>・いかなる媒体であっても適切に情報整理や発信ができるようになること。</li> </ul>	
3年	<b>区学力調査の結果の分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が少なく、文章の読み取り、書き言葉および話し言葉での表現などに課題が見られる。</li> <li>・読書経験が比較的に少ない者が多い。</li> <li>・国語への関心は低くはないが、授業内での粘り強い取り組みに結びつかない者も散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材における語彙や知識事項に関する項目を重点的に繰り返し学習し、定着を図る。</li> <li>・授業の中で表現を一つ一つ細かく読ませ、分析的な読解の仕方を学ばせる。</li> <li>・朝読書を中心に、生活の中に読書を根付かせる指導を行う。</li> </ul>
	<b>授業における課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の仕方や語彙の不足、文法や文の構成などを繰り返し学習する必要がある。</li> <li>・古典などを含めた知識事項についても定着させることが求められる。</li> <li>・読書を習慣づけていく必要がある。</li> </ul>	



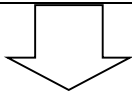
#### 現状分析を受けて、3年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策

語彙を増やすとともに、その言葉を状況や場面に応じて適切に使い分ける力を身につけさせたい。そのために、教材の種類にかかわらず、さまざまな言葉や言い回しのインプットとアウトプットを徹底させる。たとえば説明的文章の論理展開をまねて書いたり、文学的文章の特殊な表現について理解を深めさせたりすることで、その言葉をただ「知る」のみならず実際に使う場面を設けることで、自身の語彙として定着させることを目指したい。

(2) 社会科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	各クラスともにぐいぐい授業を引っ張ってくれる生徒が不在で、授業の進行に苦慮すること多いが、一部の生徒に引きずられず、全体で学ぼうとする利点もある。歴史の時代順を確認する小テストの学習では意欲的に取り組もうとする生徒が多く、前向きに努力する生徒がほとんどである。一方で、授業に関心を持たず、やや諦めている生徒、自分勝手な行動をとる生徒も散見される。そういった生徒もふくめていかに基礎学力を高めていけるかが課題である。	やはり視聴覚機器を使い、ビデオを見せるなどの学習には関心を高め、意欲的に学習できる生徒がほとんどである。そういった学習と並行して、地道に書く作業の学習を行い、知識の定着を図っていきたい。また、「なぜなのか？」という問いを大事にし、話し合いを行わせるなど自己の考えのみならず他者の意見に傾聴することで幅広い思考と考え方を身につけさせたいと考えている。
2年	基礎的な歴史、地理用語の習得に時間がかかり、重要事項の繰り返しの学習でも正答できる生徒はおおむね半分程度である。また、論理立てて説明する力も乏しく、この点では国語科の協力も必要であると感じる。3年生に向けて学力を向上させたい、もっと頑張りたいと希求する生徒がいる一方、無気力でワーク等の提出もままならない生徒も多くいる現状である。	授業の中では、書画カメラを使い、なるべく生徒の手元にある地図帳、資料集を解説することを心がけ、視聴覚機器を用いた視覚に訴える方策も模索している途上である。表現力の育成に関してもプリントでの設問、解説、繰り返しの設問、小グループでの意見交換等、何度も行わせること、他者の考えを知ることで表現の仕方や思考の柔軟さを学ばせていきたい。
3年	・生徒数の約10～15%は、学習に対する興味・関心が薄く、基本的な知識も十分には身につけていない、ノートを正確に写すことも困難な生徒も見受けられます。反対に10～20%は、知識を単純に問う問題の正答率が高いが、資料から類推して考察するといった応用問題になると正答率が低くなる傾向が見られます。興味を持たせつつ、基本的な知識を身につかせ、類推できる思考力を高めていく手段を見いだしていくことが、教師としての課題であると思います。	・やはり、効果的に興味・関心を持たせ理解を深めていく手だてとして ICT 機器を更に充実させ活用していきたいと思います。特にその日の授業の内容をまとめたもの（板書の内容）を映像で示していくことやその内容を補う意味で関連動画を視聴させていくことを、今後もより効果的に行っていきたいです。と同時に生徒の言語活動の時間を設けることによって、より一層学習内容を理解させていくことに努めていきたいと思います。



現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策
・基本的な知識を身につけ、その知識を使って様々な学習内容を理解し深く学んでいける力を、画像や動画などを視聴できる ICT 機器を活用し、楽しみながら身につけさせていきたいと考えています。更に、デジタル教科書やその他動画などの資料を数多く示していきながら、そこから類推できる現象やその原因を追及し考察していける力を身につけさせていきたいです。

(3) 数学科

【中学校】

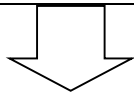
現状分析		授業改善プラン
1年	<b>区学力調査の結果の分析</b> 区平均や全国平均と比べると下回っている項目の方が多い。特に数と計算の項目で区平均より大きく下回っている。計算練習や問題を多く解かせることができなかつたことが課題である。一方で図形の項目では区平均や全国平均を上回っていた。これから先に行う図形の単元では期待したいところではある。	<b>具体的な授業改善案（手だて）</b> 毎授業の導入時に行っている計算プリントを継続して行い、小学校の算数の復習や、中学校で習った内容の確認をしていく。授業内で既習事項（特に基本的な計算）を繰り返し行うことで、問題に慣れさせていくことが大切である。わからない部分をわからないままにするのではなく、それを先生だけでなく周りの生徒に聞けるという環境作りも行っていく。そのためには、普段から生徒の考えを発表する場や、グループ活動等を取り入れていく。
	<b>授業における課題</b> 授業での生徒の様子は、積極的に発言する生徒が多いが、正負の数や文字式の基本的な加減乗除の計算に対し苦手意識を持っている生徒が1割程度いる。その中で特に加減のときの符号の変わり方でつまづいている生徒が多い。授業内で計算練習をできるだけ取り入れ、たくさん問題を解かせることが課題である。	
2年	<b>区学力調査の結果の分析</b> 校内平均は目標値よりも上回っている項目が多い。特に計算の復習では区平均を大きく上回っている。これは計算のプリントと用いて、毎回の授業で問題を多く取り扱えた成果である。一方で図形の項目は苦手意識を持っている人が多い。特に空間については区の平均を下回っている。	
	<b>授業における課題</b> 今年度は授業の冒頭で計算プリントを行った。簡単な計算を反復練習することで計算の力はついてきている。少人数で授業をしているのでそれぞれのクラスにおいて課題の設定を変えていく必要がある。基礎クラスでは特に反復練習をしていくことで学習の定着を図っていく必要がある。	
3年	<b>区学力調査の結果の分析</b> 区全体と比較すると正答率が若干下回るが、設定された目標値に対しては、上回っている項目が多い。特に、計算の分野では、多くの問題で上回っている。これは、日頃の繰り返しの学習の成果である。一方、繰り返しの学習が行われていない内容や、初見の問題（類題を解いたことがない問題）では、定着していなかったり、または問題を正対してとらえることができなかつたりするため、目標値より下回ってしまうことが多い。	
	<b>授業における課題</b> 授業の導入部で毎回行っている繰り返しの計算学習は、継続して行う。上記の分析より、※「問題を自ら解決しようとする力」が弱いことがわかるので、解説と演習を繰り返すだけでなく、章の導入や応用問題等で、※の力を養うことが課題である。	

現状分析を受けて、3年間を通して数学科で身に付けさせたい力とその方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことを言葉で表現する力を育てていく。 → 友達の考えを伝え合うことで学びあったり、学習の過程と評価を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設ける。</li> <li>基礎の徹底はもちろんのこと、それを踏まえて※「問題を自ら解決しようとする力」を育てていく。 → 基礎となる計算の反復練習やその解説、問題演習を行う。※の力を育む場面を意図的に設定し、授業の「わかりやすさ」ではなく、生徒の「ねばり強さ（ねばり強く考える力）」を育てていく。</li> </ul>
習熟度別少人数指導の充実に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、そのコースの特性に合わせて授業を展開していく。また、定期考査ごとや単元ごとに少人数クラスの変更希望を確認し、生徒の実態や要望に合わせたコースを選択させていく。</li> </ul>

#### (4) 理科

##### 【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	教師の説明を聞くことや、板書をノートに取ることは1年生としては十分にできている。教科書の通り、実験を行い、教師の予想通りの結果を出すことに課題がある。また、実験結果が正しくあっても、考察を考えることはさらに難しい。定期考査への取り組み姿勢はよく、今後は問題を解くことができるようになってくると予想される。	授業の話聞く姿勢や実験室のルール伝達をその都度行っておく必要がある。また、実験手順を前半と後半に分けて、進捗状況を確認しながら、実験を進める等、教師側の工夫も必要である。授業の中で問題演習を取り入れながら、問題に対応できる力を培わせていく。
2年	説明を聞くことや、問題に取り組むことに関しては授業クラスの約半分以上の生徒ができています。実験を手順通りに行うことに課題がある。また、実験手順の取得が不十分であるため、よりよい実験結果も得られない。実験結果が得られないため、考察を行うことが難しい。実験室での説明を聞く姿勢に大きな課題がある。	実験の手順の説明を理解することに課題があるため、実験の説明を聞くのは教室で行い、次回の授業を実験室での実験にする等、実験と説明の時間を分ける必要がある。これは、実験と考察にもいえることであり、1時間の中で完結すべきことを回数に分けて取り組む等の改善を行って行く必要がある。
3年	授業の中で説明を聞きながら、ノートにメモを取ることや、補足説明および、質問事項を記入することができる。授業の中で疑問点をその場で解決する傾向は好感が持てるが、個人的な質問や中学校の学習指導要領を超えた質問が多く見られ、全体の進行に滞りがでる場合がある。実験結果を基に考察する力がついておらず、定期考査では思考力を使う問題で正答率が低い。	質問事項に答える時間や説明を聞く時間の明確化・メリハリが必要である。そのために、授業の中で時間を意識させ、そのパターンの中で授業展開を行うことが改善策としてあげられる。特に、授業の最後にその授業で学んだ内容の確認問題を行うことで、問題を解ける力を培わせていきたい。



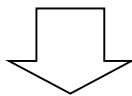
#### 現状分析を受けて、3年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策

授業の内容を理解する力と正しい手順で実験を行い、実験結果から考察を考え、文章化できる力を身につけさせたい。そのために、実物教材やICTを活用しながら、生徒が理解しやすい授業展開を実践するとともに、実験の授業の大切さを説き、よりよい姿勢で実験に取り組ませる心の教育に力を入れていきたい。このことは生命尊重の根幹に当たる。

(5) 音楽科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<p>【生徒の実態】</p> <p>①表現分野では、詩への想像力や音楽的な言語の処理能力、音楽的变化をつける表現力につまづきのある生徒がいる。</p> <p>②鑑賞分野では、音楽的な見方・考え方を働かせるために必要な日常経験が乏しい生徒がいるため、音楽史や音楽表現への共感の程度が下がっている。</p> <p>【教師の指導上の課題】</p> <p>①音楽室の環境整備として、机や棚が横に置かれており、歌唱練習に適した教室環境とはいえない。</p> <p>②最大5列での合唱では、最後列の生徒へのきめ細やかな指導が行き届きにくい。</p>	<p>【生徒の実態への改善案】</p> <p>①国語科や特別の教科道徳、総合的な学習と連携し、言葉から想像することや、情景を感じることへの理解を深める。</p> <p>②鑑賞教材の選曲において、学校生活での経験につながる教材を選曲するか、文化的視点で</p> <p>【教師の指導上の課題への改善案】</p> <p>①夏季休業中に教室内の机及び棚を撤去し、活動できる空間を確保する。</p> <p>②教室環境を整備し、2列で指導できるようにする。また、指揮台やバス椅子を活用し、視線を高く保つ。</p>
2年	<p>【生徒の実態】</p> <p>①表現分野では、フレーズに変化をつけて表現する能力が身につけていない生徒が多い。</p> <p>②鑑賞分野では、歴史的・文化的視点で音楽を鑑賞する能力につまづきのある生徒がいる。</p> <p>【教師の指導上の課題】</p> <p>①創作において、学校内で手に入る音素材の数が少ないため、創造的な活動が限定されている。</p> <p>②鑑賞では、文化的視点で学習させるための資料が、インターネットを通じたものに偏っている。</p>	<p>【生徒の実態への改善案】</p> <p>①歌詞（言葉）の表現を根拠に、音楽的工夫を深めさせる。</p> <p>②歴史的・文化的見方によって、音楽の共通性や固有性が浮かび上がることを、</p> <p>【教師の指導上の課題への改善案】</p> <p>①素材の収集及び、小物楽器の購入を行っていく。</p> <p>②司書教諭や図書館教育担当と連携するなど、資料の媒体を幅広く取り扱う。</p>
3年	<p>【生徒の実態】</p> <p>①表現分野では、表現の根拠となる音の変化や、音楽を分析する力が身につけていない。</p> <p>②鑑賞分野では、音楽を他の芸術などと関わらせて記述する、音楽的な言語能力が身につけていない。</p> <p>【教師の指導上の課題】</p> <p>①発展的な表現の指導では、専門的な内容の解説に時間をとってしまい、演習の時間が少なくなる。</p> <p>②鑑賞における音楽の固有性、共通性を認識させるための、探究的な課題が少ない。</p>	<p>【生徒の実態への改善案】</p> <p>①共通事項と結びつけ、音楽を形づくる要素の捉え方を指導する。1・2学年での既習事項を振り返る。</p> <p>②鑑賞の記述例を示し、音楽的な見方・考え方を生かした記述の視点のもたせる。</p> <p>【教師の指導上の課題への改善案】</p> <p>①音楽的变化を感じやすいポイントに要点を絞り、演習を通して内容を理解できるように授業展開を改善する。</p> <p>②題材の連続性を持たせ、2学年までの既習事項を活用した簡素な探求課題を取り入れる。</p>



現状分析を受けて、3年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策

○表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けさせる。

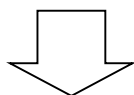
⇒音楽と音楽文化、共通事項を相互に連携させながら単元計画を構想する。

⇒小学校音楽科の学習内容及び、高等学校芸術科の学習指導要領との関わりについて見通しをもち、15年間の系統的な指導を行う。

(6) 美術科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	【生徒の実態】 ○全体的に制作に対して意欲的である。 ○苦手意識が強くあり、頑張りきれない生徒がいる。 【教師の指導上の課題】 ○作業中は、全体的によく集中しているが、準備や片付けに時間がかかる。 ○苦手意識を取り除き、楽しんで集中できるようにしたい。	○準備・片付けを要領よくこなし、それぞれ5分程度におさえたい。 ○課題に対して各自が目標を持って取り組めるように、参考作品などを提示し、意欲の向上を目指す。
2年	【生徒の実態】 ○制作に対して意欲的な生徒もいるが、一方で集中できず本来の作業が進まない。授業とは、関係のないことをしてしまう生徒も常に数名いる。 ○提出物を期限内に出さない生徒が数名いる。 【教師の指導上の課題】 ○制作に対する意欲がなく、授業時間内に本来の活動を見失う生徒がいる。 ○提出物を出そうとする意欲の向上に課題がある。	○作品に対する向上心や良い作品を良いと思える素直な気持ちを再確認し、意欲を高め、本来あるべき授業姿勢を目指す。また、優秀作品を展示するなどし、意欲を高めていく。 ○未提出者には、くり返し声かけをし、提出を促す。
3年	【生徒の実態】 ○制作に対し、意欲的な生徒が多い。 ○鑑賞など座学の授業も集中して受けている。 【教師の指導上の課題】 ○混色、重色などの基本的な絵の具の使い方が苦手である。 ○長い時間をかけて制作する作品の際に、完成に向けて見通しを持つことが難しい生徒がいる。	○資料集などで水彩画の基本的な技法を再確認し、目指す表現に近づくために個別指導を繰り返す。 ○完成提出の期限をくり返し伝え、各自が計画性を持って進めるよう声かけをする。

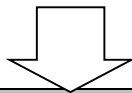


現状分析を受けて、3年間を通して美術科で身に付けさせたい力とその方策
美術科の重点  ○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を持つとともに、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。  ○創造的な活動を通して、豊かに発想し、表現の構想を考え、自分の見方や感じ方を深める力を育てる。

(7) 保健体育科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<p>【生徒の実態】</p> <p>①集合や1つ1つの行動のメリハリが遅く、はじめのある行動ができていない生徒がいる。</p> <p>②集団行動が確実でなく、自発性、協調性が足りない生徒がいる。</p> <p>【教員の指導上の課題】</p> <p>①授業の中で、どんな生徒でも授業のねらいや目標が理解できるように、更にユニバーサルデザインを意識した授業の導入や学習環境を整える必要がある。</p> <p>②集団行動や、グループ学習の際に生徒の特性に合った言葉掛けや指導の創意工夫が必要である。</p>	<p>授業規律を強調し、はじめのある行動を促すとともに、生徒同士の所属感や連帯感を高めていき、1つ1つの行動にメリハリをつけるように意識付けをしていく。また、グループ活動（ペア・トリオ）を多く取り入れ、授業の中で、他の生徒にも積極的に声をかけたり、場面に応じて教え合ったり、説明する練習の場を増やしていく。その際、自分の課題などを視覚的に捉えられるように ICT の活用（iPad の活用）を積極的にしていく。</p>
2年	<p>【生徒の実態】</p> <p>①運動技能や体力向上を実感できる授業実践を、生涯にわたって運動実践に生かそうとする意欲が低い生徒がいる。</p> <p>②運動が苦手な生徒と得意な生徒の二極化が顕著に表れている。ペア学習やグループ学習などが深まらない事がある。</p> <p>【教員の指導上の課題】</p> <p>①生徒たちの興味・関心を、体力向上の意欲につなげるための創意工夫が必要である。</p> <p>②生徒たちの状況や様子を鑑みて、ペア学習やグループ学習の構成を考え、学習環境を整えていく必要がある。</p>	<p>授業規律を強調し、はじめのある行動を促すとともに、生徒同士の所属感や連帯感を高めていく。授業の中で、身体を動かすことへの喜びや達成感を多く味わうことで運動することへの動機付けを強くしていく。また、グループ活動（ペア・トリオ）を多く取り入れ、授業の中で、他の生徒にも積極的に声をかけたり、場面に応じて教え合ったり、説明する練習の場を増やしていく。その際、自分の課題などを視覚的に捉えられるように ICT の活用（iPad の活用）を積極的にしていく。</p>
3年	<p>【生徒の実態】</p> <p>①自主性・協調性を持って取り組んでいる生徒がほとんどであるが、自己の適性等に応じた技能・体力の向上に努める態度や思考力・判断力・表現力を生かした合理的実践になっていない生徒がいる。</p> <p>②運動が苦手な生徒と得意な生徒の二極化が顕著に表れている。特にチームスポーツの単元の授業では、消極的な生徒が目立つ。</p> <p>【教員の指導上の課題】</p> <p>①運動が苦手な生徒や運動に対して、消極的な生徒への指導や支援の具体的な手立てが分からず、ペア学習などが深まらない事がある。</p> <p>②どんな生徒でも、運動を楽しめ、挑戦しようとする意欲を発揮できる学習場面や学習目標の設定を生徒の状況を見て柔軟に判断していく必要がある。</p>	<p>学習カードや ICT の活用（iPad の活用）により、自分の体力や技能の到達度を把握させ、より一層向上心を高めていく。どの単元においても、自分自身の課題を客観的に捉え「どうすれば課題解決ができるのか」を考察させる場面を確保していく。その際、グループ活動（ペア・トリオ）を多く取り入れ、生徒同士で助言や話し合いができる機会を増やし、集団として高め合っている授業内容にできるよう工夫していく。</p>



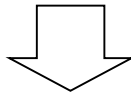
現状分析を受けて、3年間を通して保健体育科で身に付けさせたい力とその方策
<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成していく。同時に、多様性を意識しどんな人とも、どんな考えをもった人ともスポーツを通してお互いに尊重することの大切さに気づき支え合う能力や態度を育てていく。</p>



(8) 技術・家庭科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・普段の生活や社会の中で体験や発見した事を学習につなげていく指導が必要である。</li><li>・持っている知識を活用し生活を工夫するまでに至っていないので知識や学習を関連付けて、学習する指導が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習を生活体験と関連付け、生活を工夫し創造し課題を解決するために伝統的な技能や工夫が今の生活を向上させてきた事を理解して実物に触れる機会や例示・実験で生活との関連を深められるように ICT 機器を活用し指導をする。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習した事を生活の中の体験に関連づけ生活で粘り強く工夫して活用する指導が必要である。</li><li>・学習したことを安全に注意し他の生徒と協力し生活に生かし作品製作を努力する指導が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・必要な基礎知識や技術をしっかりと指導して理解を深めさせる。技能の適切な利用と知識の活用方法の習得の時間を確保し技能と知識の定着をはかる。</li><li>・生活体験の中から課題を発見し解決するための方法と手順を自ら考えられるようにiPadを活用し指導する。</li></ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習した事から生活の営みの中で物の見方や考え方を工夫し課題を解決しようとする指導が必要である。</li><li>・学習した事を論理的に組立て他者に頼らず自分で考え探求する指導が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活を通して物の見方や仕組みを観察し生活を工夫し向上させるための学習を進め、課題を発見し手順を考えて解決しようとして学習できる生徒を目指す。</li><li>・自分の生活の中で学習した事との関係を発見し疑問を持ち探求する生徒を目指す。</li></ul>



現状分析を受けて、3年間を通して技術・家庭科で身に付けさせたい力とその方策
<p>○身に付けさせたい力</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・技術改革や社会の構造が大きく変化していく中で質的な豊かさを伴った個人と生活の成長につながる新たな価値を生み出すことができる生徒の育成をする。</li><li>・ものづくりの文化や伝統的な技術の伝承と技術革新とそれを担う職業への関心、他者と協働して粘り強く物事に取り組み、安全な生活や社会作りに貢献しようとする生徒の育成をする。</li></ul> <p>○その方策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実践的な学習活動を充実して、学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や社会と連携を図った「生活の課題と実践」に関する内容を充実する。</li><li>・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</li></ul>

(9) 外国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットの読み書きが難しい生徒が少なからずいる。</li> <li>・話す活動を楽しんでいるものの、発表となると苦手な生徒が多い。</li> <li>・自分の意見や考えを自主的に発言する生徒が少ない。</li> <li>・既習の語彙や語句を反復する機会が少なく、机間巡視、プリント課題でのチェック、定期考査以外で生徒の学習定着度を把握できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習の基本であるアルファベットの読み書きの大切さを伝えていくとともに、練習プリントや小テストの実施をしていく。</li> <li>・各プログラムの文法内容に合ったゲームやアクティビティなどで話す活動を増やしたり、既習の単元の音読発表を繰り返したりして、生徒が楽しく自信をもって発表を行えるようにする。</li> <li>・こちらから指名して発言を促すだけでなく、ペアやグループで話し合いの時間をとってから挙手、発言を求めるなど、発表しやすい環境をつくっていく。</li> <li>・前時の復習の時間、単語テストやスピーキングテストの回数を増やし、生徒の学習定着度を図る機会を増やす。</li> </ul>

現状分析		授業改善プラン
2年	<b>区学力調査の結果の分析</b> すべての領域において目標値は上回っているが、内容別正答率を見ると、「語形・語法の知識・理解」、「場面に応じて書く英作文」は目標値を下回っている。いずれも基本となる文法や文型の定着が図れておらず、正確さに欠けてしまったと考えられる。	<b>具体的な授業改善案（手だて）</b> ○文法・語法については、新しい内容を導入する際に、既習事項と関連付けながら導入し、繰り返し復習・整理する機会を意図的に設定する。 ○Senes の文法導入の際に基本形を十分に口頭練習をした後、簡単な表現を用いた自己表現活動（正確に書く活動）を行ってから、単元末の Retell へとつなげて、まとまりのある英文で表現できるように指導を工夫する。 ○生徒用 iPad を使って、生徒自身の発話を録画させて自分自身の成果や課題を明確にし、次への目標を持たせる。
	<b>授業における課題</b> 令和3年度版の教科書より Retell のページが1年生の終わりから新設され、Retell の活動に挑戦させている。目的・場面・状況を捉えて適切に表現することはできる生徒が増えてきたのは成果であるが、正確さに欠ける点が今後の課題である。	
3年	<b>区学力調査の結果の分析</b> すべての領域において目標値を上回っているが、「リスニング（内容理解）」と「語形・語法の知識・理解」の箇所では、目標値を下回っている。基本的な文法事項への定着が図れていないことが課題である。	○文法・語法については、新しい内容を導入する際に、既習事項と関連付けながら導入し、繰り返し復習・整理する機会を意図的に設定する。 ○基礎・基本の定着を図るために、1・2年次に学習した内容の復習を行いつつ、確認テストを実施する。 ○文法事項を学習する際は、学習した表現を用いて自己表現活動を行う。また、単元の終わりにおいても、各単元で学習した表現を使う学習を再度設け、より定着を図る。
	<b>授業における課題</b> 基本的な文法事項を大まかに理解はしているが、正確性に課題がある。それにより英作文を書くことに課題がある。また、話すことにも正確性に欠ける生徒が多く、基礎・基本の定着が今後の課題である。	

現状分析を受けて、3年間を通して外国語科で身に付けさせたい力とその方策

デジタル教科書や iPad 等の ICT 機器を効果的に活用し、基礎・基本の定着を図る。また、4技能5領域をバランスを意識した授業を実施し、生徒の発話量を増やし英語を積極的に使う機会を増やす。基礎的な知識・理解の定着に課題があり、くり返し学習する場面を設ける。

少人数指導の充実（実施校）に向けて

個に応じた指導ができるように、ペアリングや座席を工夫する。ペアやグループでの活動を多く取り入れ、生徒が自主的に学ぶ機会を増やす。ICT 機器を効果的に活用し、生徒の英語使用量を増やす。

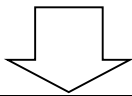
ALTの活用の工夫

ALTの授業では、日常での使用場面を意識した活動を多く取り入れる。また、ALTと生徒間での音読テストやスピーキングテストを定期的に行い、ALTよりフィードバックをもらい、生徒の英語力向上に役立てる。英語を使う楽しさや英語学習の必要性、達成感を感じ、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成を図る。

## (10) 特別の教科 道徳

### 【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
全学年をとおして	○生徒の実態 導入部から興味を持って授業に参加し、展開部では自分の考えをしっかりとワークシート等に記述できる生徒が多い。ただし、記述後に発表することを想定してしまい、正直に、あるいは素直に記述できない場面も稀にある。	・引き続き生徒が興味を持って取り組めるよう、授業の導入部から展開で、身近な話題や資料（画像や動画を含む）を活用したり、視覚的に分かりやすくするために、パワーポイント等で資料を準備したりする。 ・正直に、素直に意見を書いたり発表したりできるように発表や記述の場面での声かけを行い、また発表等に教員が否定的にならないようにする。（ただし、いじめや差別等あるいは死を肯定する意見には別途対応が必要） ・学年や学校全体で指導案を共有することで、どの教員が担当しても、多くの生徒の意見や考えを共有できるようにする。ICT機器の活用やグループ学習等も、知っている教員だけが活用するのではなく、校内研修やOJTを通して、教員全体に浸透させていく。
	○教師の指導上の課題 導入から終末まで、生徒が興味をもって取り組めるように、多くの生徒の意見や考えを全体で共有できるように授業を行うことができている。3～4名の小グループでの話し合いやICT機器を活用してお互いの意見の共有を図り、工夫して授業を展開できている教員が多い。ただし、担任や副担任に関わらず、どの教員が授業を行っても、上記の工夫を同様に行えるようにしていくことが、今後の課題である。	



### 現状分析を受けて、3年間を通して特別の教科 道徳で身に付けさせたい力とその方策

特別の教科 道徳 で身に付けさせたい力とその方策

#### ○身に付けさせたい力

自他の生命の尊厳と人権を尊重する精神を養うことを基調とし、生徒一人ひとりに豊かな心を育み、思いやりの心や規範意識を身に付けた生徒を育成する。（授業においては、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの生徒が自分自身の問題として捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る。）

#### ○その方策

道徳の授業だけでなく、他の授業や行事、日々の生活の中で、上記の「身に付けさせたい力」を育める場面では、日常的に行っていく。また、上記の「具体的な授業改善案（手だて）」のとおり、今後の授業改善に努めていく。